

# 環境と対話する建築 / 日清食品グループ the WAVE

里山の風景が広がる地に食品会社の研究所を計画するにあたって、食の原点である豊かな大地と建物が応答することを目指した。敷地に沿う曲線状の外形は大型の鏡面ルーバーで覆われ周囲の風景を自身に移し出す。内部空間では、不整形な外形を持つ平面に対し、研究室を中央部に街区状に配置することで、外形との間に外部環境との対話の場を生み出した。里山の風景の中に、内外にわたり「環境と対話する建築」を実現した。

**Architecture in Communication with the Environment / Nissin Foods Group the WAVE**  
 In this food company's project in nature, the building should be in harmony with the land which is the origin of food. The curved shape to match the landform is covered with mirror surface louvers, so the surrounding landscape is reflected within it. The research rooms are arranged in an orderly manner in the center of the plan, thereby the places are produced between rooms and the external shape for feeling nature. Finally, architecture in communication with the environment is realized within this landscape.



広がるランドスケープの中に鏡面の大型ルーバーで覆われた研究所が現れる



全景、里山の風景が広がる丘陵地に位置する

## 環境をつなぐ

～食品会社として行う里山の風景の継承～

東京多摩地域・八王子市西部、里山の風景が広がる今回の計画地に食品会社の研究所を計画するにあたり、食の原点である豊かな大地と建物が応答することを目指した。馬蹄形の平地を持つ本敷地に対し、その形に寄り沿うようルーバーの三角形をベースにした不整形な建物外形を採用し、周囲の木々の高さを越えない低層の計画を行った。その上で、周囲の里山（谷戸生態系）の多様な植生を参照・再構築しつつ、南と北に流れる2つの多摩川水系の中継地としても機能する生物池を建物周囲に寄り添わせることで、周辺の里山と一体となる環境づくりを目指した。月日を経て、この施設がこの地の自然に同化していくことを願う。

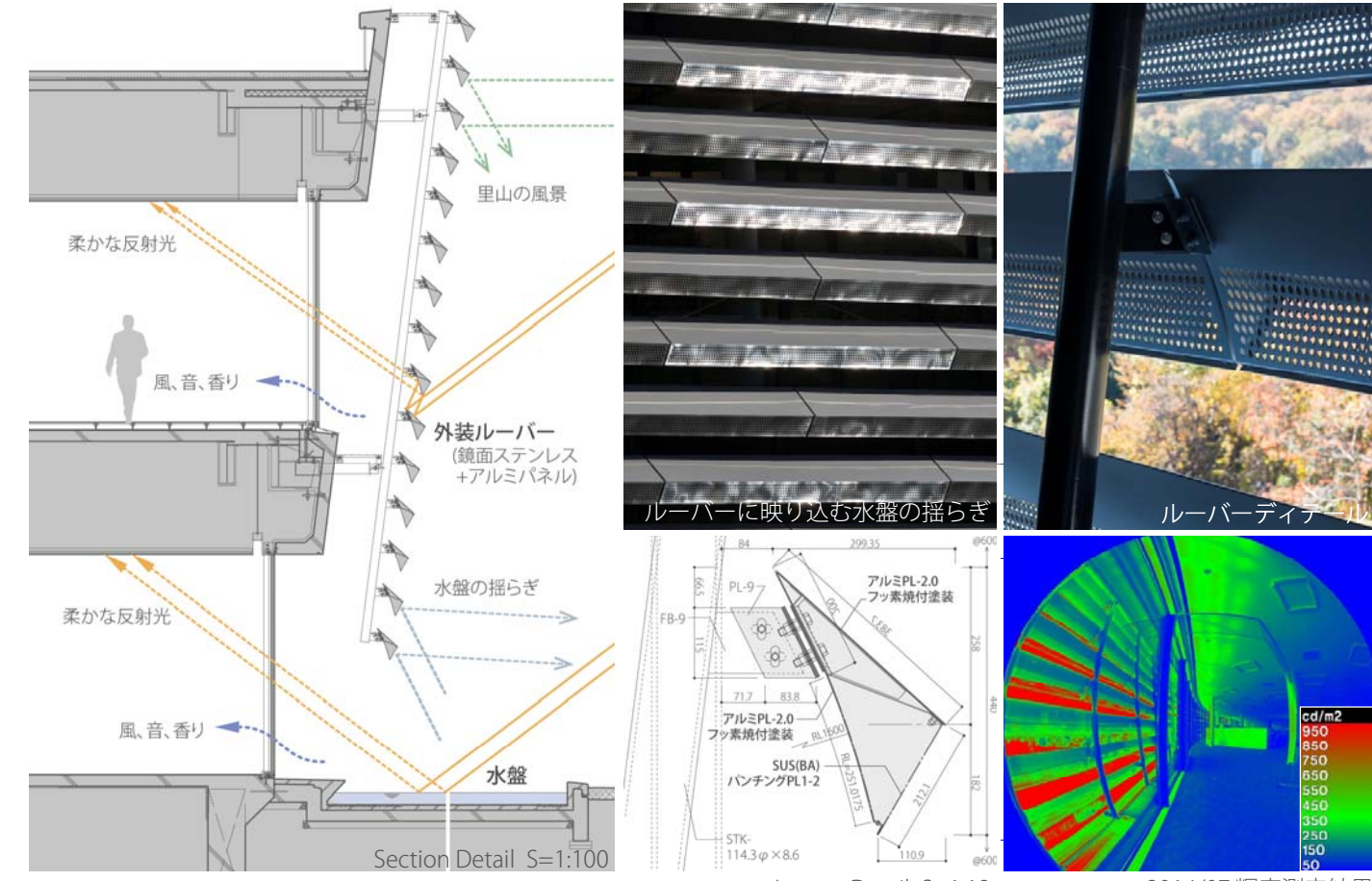


夕景に映える風景

## 環境をまとう

～環境を映し、環境を取込む外装～

建物外周を覆う大型ルーバーは、外側をステンレス鏡面のパンチングパネル、上面と内部側をアルミパネルによって構成した。外部に対してはステンレス鏡面部分に周囲の自然を映し込む装置として機能する。同時に内部に対しては直達光を遮り、反射光によって天井を柔らかく照らすことで、自然の持つ環境の揺らぎをより表情豊かな光環境に変換して室内にもたらすことを目指した。また、光環境の抽出に加え、さらなる外部性の抽出を目指し、自然通風システムを導入している。結果、開放思考の場となるこの空間は、ルーバーや水盤を介した自然光、四季折々の表情を見せる周辺の里山の風景、外部の音や匂いや風といった自然環境の揺らぎをまとうことが可能になった。



2014/07 輝度測定結果



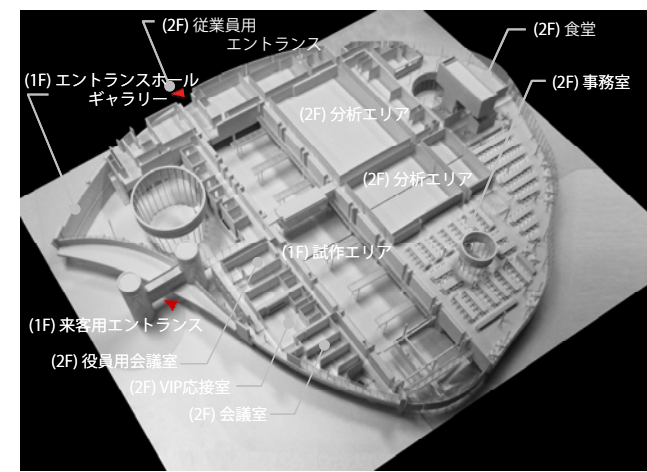
内外刻々と移りゆく環境とともに様々な表情をまとう外観



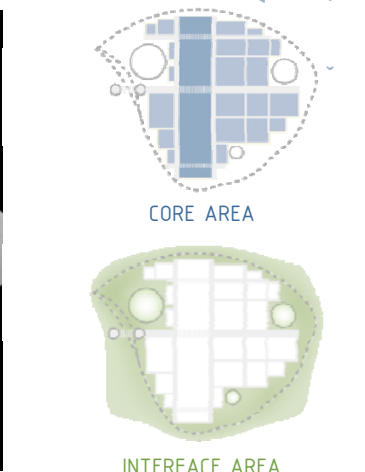
外装ルーバーと水盤を介して入る環境が様々な表情になって現れる

## 環境とつながる

～研究者の感性を刺激する2つの空間～



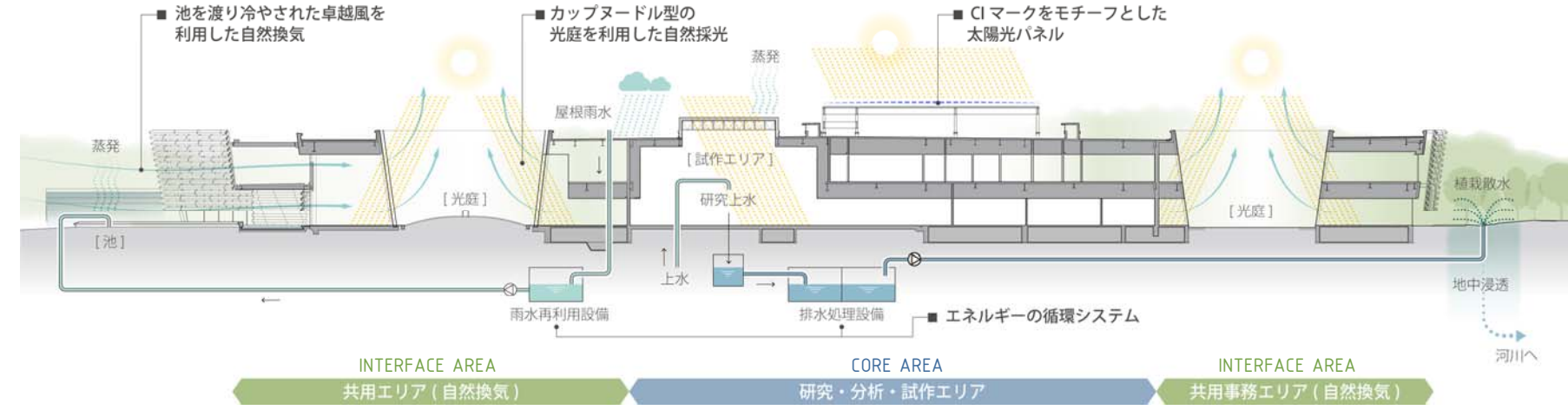
内部空間では「コアエリア」と「インターフェイスエリア」という2種類の空間によって外部形態と内部空間との整合を図っている。「コアエリア」と名付けた研究機能室群を方位軸に則った街区状の配置とすることで、外形との間に不整形な空間を生み出し、「インターフェイスエリア」と名付けたその空間を自然環境を享受する場としている。均一な環境を持つコアエリアと揺らぎのある環境をもつインターフェイスエリアという相互に補充しあう2種類の空間が、前内を移動する研究者の心身の集中→開放のモード変換を促し、感性を刺激する。



インターフェイスエリア

## 環境に寄り添う

～地産地消するエネルギー～



■エネルギーの循環システム  
 大きな建築面積と研究で使用される給水の使用量が多いこと、その一方で大きな水盤と植栽エリアをもつ本計画では雨水・研究排水の再利用システムを計画した。給・下水道インフラの負荷低減と水使用量の削減、敷地周辺の水と緑の生態系をつくる周辺環境への貢献、地中浸透や蒸散による周辺環境への貢献を同時に図っている。

■CIを兼ねる太陽光パネル  
 水資源を循環させるシステムの動力を確保するため、電力量に応じた太陽光パネルを設置している。同時にCI表現を施し上空からの見え方へ配慮した。

■光環境を補完する光庭  
 外周部の空間でエントランスホールや事務室等奥行き深い空間には光庭を配置し、光環境の補充を図っている。

■卓越風の取込  
 建設地には年間を通して南北方向の卓越風が吹いていることが確認できた。周辺の緑や水盤をわたって卓越風を外周部で取り込み、光庭から排出する自然換気・通風システムを導入している。これにより外周部インターフェイスエリアでは風や音、香り、湿度といった自然環境の揺らぎを導入することが可能になった。



エントランスホール

## 環境設備計画の概要

評価項目	特に評価するポイント	評価項目に関する具体的な計画内容	自己評価			合計
			満足	準満足	不満足	
A. 感性面 (造形) Form	01 建築性	◎	◎	○	◎	2
	02 機能性	◎	◎	○	◎	2
	03 操作性	◎	◎	○	◎	2
B. 機能面 (技術) Technology	04 操作性	◎	◎	○	◎	2
	05 安全性	◎	◎	○	◎	2
	06 環境性	◎	◎	○	◎	2
C. 社会面 (環境) Environment	07 環境性	◎	◎	○	◎	2
	08 操作性	◎	◎	○	◎	2
	09 安全性	◎	◎	○	◎	2
D. 経済面 (LCC) Life Cycle Cost	10 環境性	◎	◎	○	◎	2
	11 操作性	◎	◎	○	◎	2
	12 環境性	◎	◎	○	◎	2

## 建築概要

用 途 : 研究所  
 建 築 主 : 日清食品ホールディングス  
 所 在 地 : 東京都八王子市  
 デザイン監修 : 吉谷誠幸・NASCA  
 設計・施工 : 竹中工務店

敷地面積 : 86,768m<sup>2</sup>  
 建築面積 : 11,405m<sup>2</sup>  
 延床面積 : 17,235m<sup>2</sup>  
 階 数 : 地上2階  
 構 造 : S造、一部SRC造、RC造

